

山陰道の整備状況



整備進捗状況 単位:km

	延長	開通済	事業中
全体	380	208	117
島根県	180	113	60

凡例

	高規格幹線道路
	開通済
	事業中
	調査中

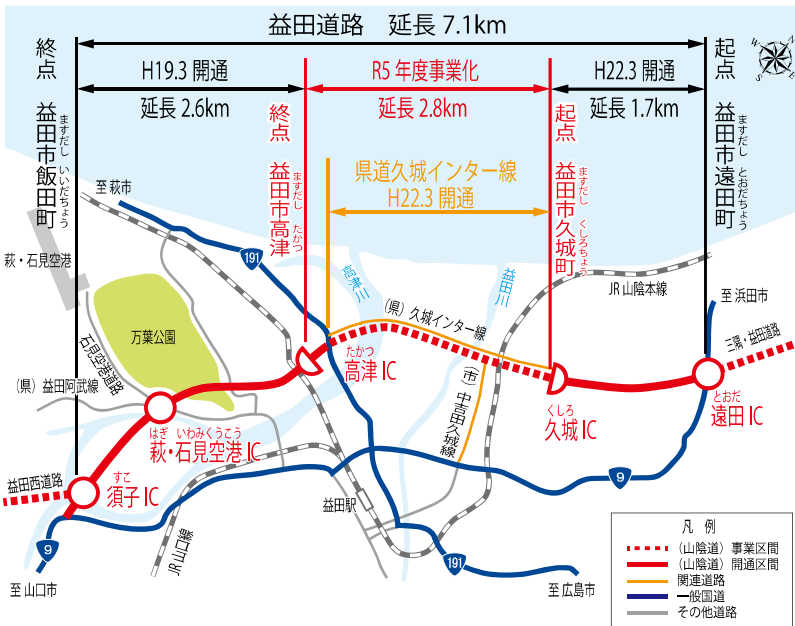
(R6.4.1現在)

道路ができるまで

- 1 測量・地質調査**
関係者の皆さまに了解を頂いてうえで、測量及び地質等を調査して、現地の状況を把握します。
- 2 皆さんと設計協議**
詳細な図面によって関係者の皆さまと現地等において詳細にわたって話し合います。
- 3 用地幅杭打設**
設計協議が終了すると、話し合いの結果に基づいて幅杭を打ちます。
- 4 用地測量・物件調査**
関係者の皆さまが立会のうえ、土地の境界を決めて、用地測量や物件を調査します。
- 5 土地代や補償などを説明**
関係者の皆さまに土地代や補償内容の説明をします。
- 6 売買・補償・成立**
契約調印のうえ、登記事務と補償金の支払いをします。
- 7 道路・構造物の詳細な設計**
地質調査や測量の結果を元に詳細な構造を設計します。
- 8 工事説明・工事**
道路をつくるには土を盛ったり、コンクリートや鉄を使って、強く丈夫で、しかも安くできるように工夫します。
- 9 完成・開通**
多くの方の協力によって、快適な道路が出来上がります。

H8年度事業化時に実施 ◀ ▶ R5年度より実施

事業経緯



益田道路の事業経緯

H8.4.1	事業化
H10.3.27	都市計画決定
H15.9.2	都市計画変更
H19.3.24	高津IC～須子IC間 開通
H22.3.27	遠田IC～久城IC間 開通
R5.4.1	久城IC～高津IC間 事業化

県道久城インター線

一般国道191号から益田道路の久城ICにアクセスする道路として計画。

延長	2.5km
車線数	2車線
管理者	島根県

一般国道9号

益田道路

くしろ たかつ
久城～高津

安心ネットワークで、地域を元気に!



お問い合わせ先

国土交通省 中国地方整備局
浜田河川国道事務所

〒697-0034 島根県浜田市相生町 3973
https://www.cgr.mlit.go.jp/hamada/

TEL: 0855-22-2480

浜田河川国道事務所 検索



国土交通省 中国地方整備局 浜田河川国道事務所

一般国道9号

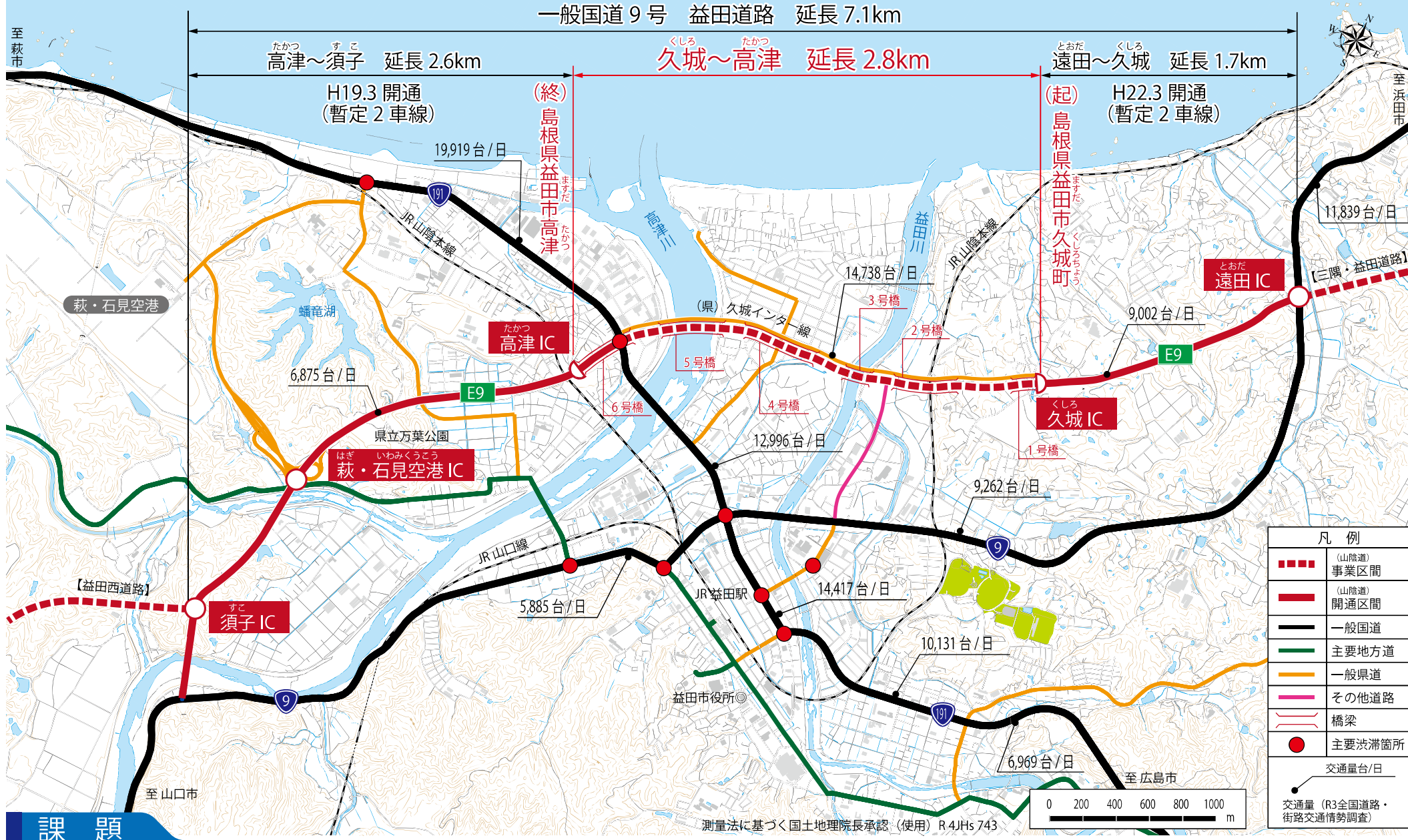
益田道路

くしろ たかつ 久城～高津



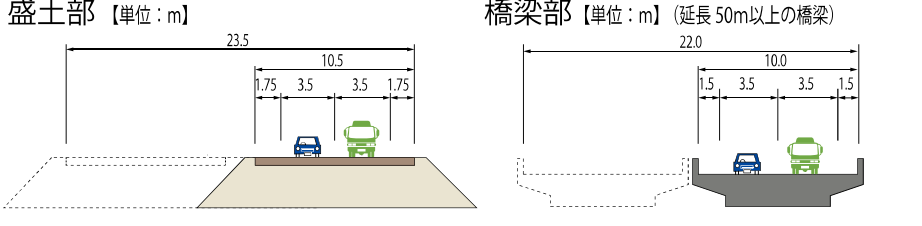
事業の目的

益田道路は、災害に強く信頼性の高い道路ネットワークを確保し、救急医療施設や主要な産業拠点などへのアクセス性を向上させることで住民生活や地域産業の活性化を支援することを目的としています。



事業概要

路線名	一般国道9号益田道路	道路の区分	第1種第2級
起点	島根県益田市久城町	設計速度	80km/h (暫定2車線時)
終点	島根県益田市高津	車線数	暫定2車線
延長	2.8km	幅員	23.5m (10.5m)



整備効果

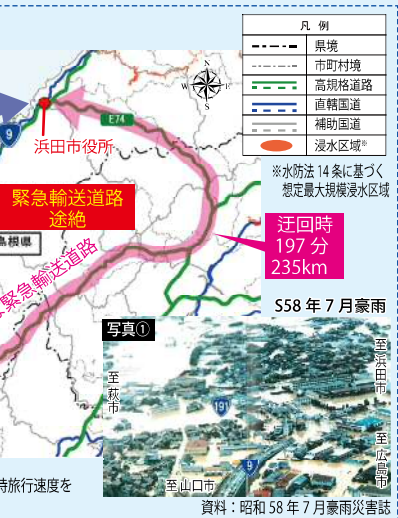
効果1 信頼性の高い道路ネットワークの確保
 現道の代替路として機能する道路整備
 災害による緊急輸送道路の途絶を回避し、広域迂回を解消します。

効果2 救急医療活動の支援
 速達性の高い道路ネットワークを形成
 高次医療機関への搬送30分圏が拡大し、緊急搬送時の走行性が向上します。

効果3 物流効率化により地域産業を支援
 工業団地などの主要拠点施設間のアクセス向上
 物流活動の効率化が図られ地域経済活動を支援します。

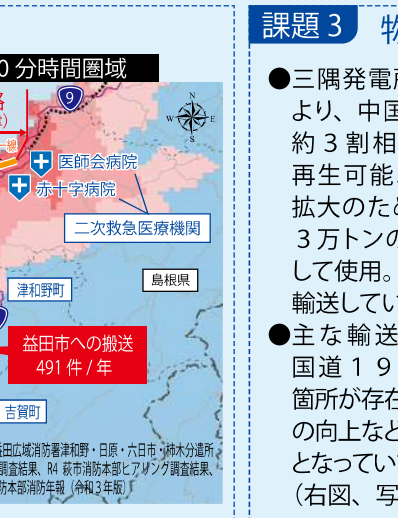
課題1 災害に対して脆弱な道路ネットワーク

- 国道9号及び国道191号は緊急輸送道路に指定された、山口県東部と島根県西部を結ぶ重要な幹線道路です。
- 当該区間は両路線の結節点となっていますが、高津川及び益田川の洪水浸水想定区域に位置しており、災害発生時には緊急輸送道路が途絶。代替路がなく広域迂回を強いられます。(右図)
- 過去にも昭和58年豪雨災害においては、当該区間において約12時間の交通の途絶が発生しました。(写真①)



課題2 高次救急医療機関へのアクセス

- 高次救急医療機関のない萩市東部や津和野町などの重篤患者の多くを、隣接する益田市の二次救急医療機関に救急搬送していますが、30分以内で搬送が困難な地域が存在します。(右図)
- 主要な搬送ルートである久城インター線は、信号交差点が多く、勾配が厳しいため、緊急車両の速度調整が難しく、患者への負担が懸念されています。(写真②)



課題3 物流効率化に不可欠な道路ネットワーク

- 三隅発電所は2号機の稼働により、中国地方の電力需要の約3割相当を発電する計画。再生可能エネルギーの普及・拡大のため石炭に加え年間約3万トンの木質チップを燃料として使用。約8割を益田市から輸送しています。(右グラフ)
- 主な輸送経路の国道9号や国道191号には、主要渋滞箇所が存在し、速達性や定時性の向上など輸送の効率化が課題となっています。(右図、写真③)

